

当別町の地域医療のあり方検討会議（第1回会議要録）

○ 日時	平成30年6月29日（金）午後7時00分～午後8時35分
○ 場所	当別町総合保健福祉センター「ゆとろ」多目的ホール
○ 出席委員	坂野委員、澤崎委員、朴委員、前田委員、小野寺委員（代理）、工藤委員、矢野委員、加我委員、中梶委員、平野委員、小林委員、佐々岡委員、浜元委員、佐藤委員（代理）、高取委員
○ オブザーバー	大原氏（江別保健所長）
○ 事務局	保健福祉課長、保健福祉課主幹、健康推進係長他
○ 関係部署	介護課長、介護支援係長、子ども未来課長

【開会】

（事務局）

只今より第1回目の当別町地域医療のあり方検討会議を始めます。座長選出の間までは、事務局で進行させていただきます。

まず初めに当別町長宮司正毅よりご挨拶申し上げます。

【町長挨拶】

（宮司町長）

本日この夜分遅くにお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。当別町の地域医療のあり方検討会という会議を作らせていただきましたが、今回のこの会議の委員として快くお引受けいただきましたことを併せて御礼を申し上げます。

皆さんご承知の通り、堀江病院が今年3月に閉院を致しました。5月23日に堀江先生にお会い致しましてお聞きしましたら、ご自身の医療法人社団を札幌の開業医の方に継承してもらうことになり、58床すべての病床を札幌市内に移される事になったとお伺い致しました。

町としては、将来を見据えた当別の医療体制の再構築に向けて、施策を早急に作らなければいけないので、この検討会を設置させていただいた次第であります。

さて、国や道の地域医療構想というものの中で、市町村が担うべき基本施策。これは在宅医療体制というものでありますが、その施策に向けては、かかりつけ医、それから訪問診療の充実、そして医療・看護・介護の連携体制が必須であるとされております。ですから、この検討会議では、在宅医療体制のあり方を基本に当別町の医療体制を構築していかなければいけないと思っております。

昨年3月に、町では地域福祉計画を立てました。その中に北海道医療大学との連携体制の強化ということが謳われております。今回、この課題解決に向けて、大学の理事長、学長とも何度も打ち合わせをさせていただきましたけども、全面的に協力いただけるということで、本日も坂野先生、工藤先生に来ていただいております。大学の持つ機能を最大限、この町の中に活用させていただければなということも考えております。

町の医療体制の充実、人口減少を食い止め将来増加させる上では何にも増して重要な施策であります。どうか本日ご出席の委員の皆様方、専門的な見地からのご意見ご提言を率直にお話をいただきまして当別町にふさわしい医療体制をしっかりと模索をし、検討していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

【委員及び職員紹介】

【座長選出】

(事務局)

座長選出の方法については、委員による互選による決定が望ましいと思います。委員による推薦という形でよろしいでしょうか。

【異議なしの声あり。】

どなたがよろしいか推薦をいただきたいと思えます。

(委員)

医療大学の地域連携推進センター長の立場として町の政策にも通じておられます坂野委員を推薦したいと思います。

(事務局)

他にどなたか推薦される方はいらっしゃいますでしょうか。

坂野委員を推薦するという案がございましたが、皆様よろしいでしょうか。

【異議なしの声あり。】

異議がないということでございますので座長は坂野委員にお願いしたいと思います。坂野座長より一言ご挨拶をお願いいたします。

(座長)

只今座長を拝命いたしました坂野です。非常に重たい立場だと思います。町のこれからの医療を皆さんと共に色々意見を交わしていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

【町長退席】

【議事】

(座長)

それでは、先ず最初に当別町の地域医療のあり方検討会議は、どのような趣旨で何を目的としているのかについて共有したいと考えます。事務局から説明をお願いします。

[事務局より説明 要約]

検討事項を「町内に必要な医療」、「医療と介護の連携に必要なこと」、「初期救急医療の連携に必要なこと」として、課題やご意見をいただく中で今後の方向性と対策を整理したいと考える。その中から、当別町において現在必要とされ、更に将来においても持続可能な地域医療の形がどのようなものかをまとめたい。

(座長)

冒頭、宮司町長からお話がありましたが、当別版の地域医療構想というのでしょうか。

今の事務局の話に持続的などという言葉がありましたが、これもキーワードだと思います。町は市町村でやることとして在宅医療の問題、かかりつけ医体制の問題、訪問診療の問題等を検討する中で当別版の地域医療構想を考えていく際の様々な意見をいただきたいというような趣旨だったと思います。

そして、今のご説明の中で、町内に必要な医療、医療と介護の連携に必要なこと、初期救急医療の連携に必要なことという3つをここで検討して欲しいと依頼がありました。そして最終的には当別町の地域医療のあり方として取りまとめるところまで進むことが理想であるということですよ。

(事務局)

現在、まずこの3回の間で具体的な施策というところまではいかないと思います。まずはこの3回の会議でどのような方向で進んでいくかを決めて行きたい、その後に必要あれば具体的な施策に取り組んでいきたいと考えています。

(座長)

当別町の地域医療のあり方として取りまとめを行うのに必要な様々な意見を取りまとめしていただきたいというような理解でよろしいですか。

皆さんの方から質問等ありましたら、お伺いします。

(委員)

最初に趣旨、ゴールを決めておく事は大事だと思います。

今の話だけではゴールが何なのか、この会の趣旨は何なのか、はっきりわからなかったです。例えば何かを決定するという事ではないのです。多くの分野の多くの人が意見を言って、提案みたいなものをざっくばらんに話しましょうということではないのでしょうか。

何か一つ例えばビジョンみたいなものをこの会でこうあるべきだとして決めるのが最終目的なのか。多くの分野から多くの意見が出ればそれでいいのか。その辺がはっきりわからなかったです。

(座長)

先ほどのご説明では、地域医療のあり方として我々で定義を取りまとめるというよりも、町はこれを長期的なビジョンとして立てようとしているので、そこに必要な様々な意見をここで出していただきたい。あるいは資料に書かれている以外にこういう課題があるんじゃないか、というような課題の掘り起こしをもし可能ならばやっていければということだと理解しました。報告書は出すけれど、政策提言をするというよりも町として積極的に考えたいというような課題を見つけ出す作業かなと理解したんですけど、町の意図はそれで合っていますか。

(事務局)

そのような形で皆様の意見をいただきながら次のステップ、当別の今後の医療は、どういうものを目指していくのがいいのか、方針を立てる上で皆様の意見をいただきたいと思っております。

(委員)

一番最初の町長の挨拶で、国と道の方向性のところで市町村は地域医療として、かかりつけ医とか仕組みを作ることになっている。まずこれを受け入れるのかどうか。

患者さんを見る目で、農家の当別とお子さんがある当別、お年寄りがいる当別ということと比べてみると、農繁期だとか、様々な疾病を持っている方の対応は、今まで堀江先生でできていたものがこれからもできるのだろうか。

当別町の特殊性っていうのは何なんだろうか。そこを共有しないと住民に対しては、かかりつけ医の充実といってもうまくいかないのでは。

(座長)

今のお話は、細かな当別の現状資料をご説明していただいた後でお話いただいた方が議論が煮詰まるでしょう。とりあえず今の段階では、我々の共通の目的は何かというところを、全員で確認しておきたいと思います。

町がやろうとしている事が本当にそれでいいのか、あるいは私たちは実際にどうしているのか、現場の人間から出していくというような意見を町に提言していく事が目的と考えています。

そういう理解でよろしいでしょうか。

次に、事務局から当別町の現状についてご説明お願い致します

[事務局より説明 要約]

当別町の地域医療の現状を、人口推計や高齢化率、要介護認定状況などの「当別町の概要」、町内医療機関や介護施設の状況などの「地域福祉資源」、町民の医療受療動向や疾病状況などの「疾病及び外来・入院・救急の状況」、町内の看取りや訪問看護の実績などの「訪問診療・訪問看護の状況」、町内介護保険施設等のサービス量などの「介護サービスの状況」に分けて説明する。

(座長)

膨大な資料を駆け足でご説明いただきました。本日、江別保健所の大原所長にオブザーバーとしてお越しいただいておりますので、国や道の医療政策の動向について、情報を頂ければと思います。

[大原所長より北海道医療計画の概要の説明]

(座長)

今の町からの説明と道からのご説明を伺って、意見交換をスタートしたいと思います。

(委員)

町からの資料の中で、人口が増えるというデータがあるが、今後北海道自体が人口半減と言われおり、当別町も2050年には半減するというデータが出ています。どこからこのデータがでてきたのか。

(事務局)

当別町で作成した人口ビジョンです。現在町で行っている政策全てこれが基になっています。この医療施策だけではなく、産業や教育などのすべての施策により、人口が2040年には2万人になる目標を立てて町全体でとり進めていく中で、このデータを示しました。

社人研では、2050年に8,000人というような具体的な数字も出ていますが、これ

から人口増加に向かって実施する町の施策は、そのデータには一切反映されておりません。逆にいうと町がこれから行う施策は反映されるべきだと私たちは思っています。その中で今回この議論の基となるデータとしては、町の施策が今そちらに向かっているという事から、このデータを示したという事になります。

(座長)

人口予測は、悲観的な見通しでプランを立てていかないと駄目ではないかと私も同じような感想を持ちます。

(委員)

この人口に基づいて、医療だけでなく様々なことを計画していくとすごく危険な気がするのですが、考え直してもいいんじゃないか。こうなったらいいなという気持ちはよくわかるが、現実はそのようではない。

当別の医療の現状報告に期待していたけれど、住民が当別の医療に関して何を思っているのかという事が入っていない。住民の生の声、住民の希望、実際住民は病気になった時にどこを受診して、そこで満足しているのか。

住民一人一人の体験談が羅列してあった方が、今後の医療のあり方のイメージが個々の頭に浮かぶような気はします。次回以降、住民が当別の医療に関してどう考えているかがわかれば教えてほしいと思います。

それからこの会が一番最初に案内された時に、住民代表の方もメンバーに入れるということも聞いてたが、今日のメンバーは、医療サービスする側の方の人ばかり集まっている。主役はやっぱり住民だと思うので、ここに集まっている人と同じくらい住民の人がここに居て然るべきだなんていう気もする。

(座長)

今のところは非常に大切な視点だと思います。これから町にこういう情報を集めなさいだとか、それから町民の方々に対してこういう視点から意見を聞く機会を作りなさいだとか、そういったものを我々は町の方にリクエストしていいと思います。

町から追加資料を提出してもらって作業を次の会合までの間に入れてもいいかなと思いました。

全ての世代で人口が増えると考えたら、地域包括医療や、介護だけでなく、それこそ子育て世代であるとか、歯科診療であるとか、そういう視点も考えていかないと駄目だと思います。他にいかかでしょうか。

(委員)

何日か前の新聞に、北海道医療大学と宮司町長が会合したという話が記載されていたが、そこには、医療大学が町内の医療機関と連携した上で、入院患者の受け入れを了承している。金沢の大学内の内科系のクリニック再開についてテーブルに上がっている。ということでした。その話が進んでいくのであれば、この検討会議の内容もまた変わってくると思います。

先ほど人口が増えるという部分では、高齢者ばかり増えたとしても、病院が必要な方が増えていくことになるが、医療がない町にどうして増えていくのだろうと町民が話していることが地域サロンでの話題となっていました。それに関して当別町としてどのように考え

ていくのかを先に教えていただき、議論していただくような場を設けていただければと思います。

(座長)

議論でなくてもその点に関して町の方で、こういう方針を持つてるとか、こういう動きをやらうとしているというようなことがありましたら追加で発言してください。

(委員)

1点目の新聞記事の件ですが、今回堀江病院の閉院の話があつてから様々な方々とお話をしたり、どういった地域医療を考えていけば良いかアドバイスをもらったりということ町長も含めまして行いました。

江別医師会や江別市や札幌市などに相談する中で、医療大学に行った時に、町内の内科の先生方が、例えば肺炎による入院が必要と判断された時に、あいの里の大学病院でも連携しながら入院患者の受け入れを強化するというお返事をいただきました。

今回、新聞に載っていた金沢のクリニックの再検討は、町長と理事長、学長で、以前金沢の大学に内科クリニックがありましたので、再開する方法はないだろうかという可能性も含めまして、お願いしたりご相談してるという状況です。

人口動態と人口ビジョンの関係ですが、先ほども担当の方からお話したとおり社人研でいきますと、2020年から直線的に人口が下がるという構想が出ていまして、当別では様々な対策を打って2020年から少し上がるような対策を打っていますので、それが20年先になると相当な開きがあるということです。

今は、これから7年後くらいの団塊の世代が75歳になる2025年を見据えながら介護保険事業計画も策定しています。現場は、その辺を考えながらということになるが、2040年に2万人という人口に向けて町職員一同、施策を組んでいきたいという思いがあり、今回の資料としてもそこを載せています。おっしゃる通り人口の見通しをしっかりと見ながらでなければ、必要な地域資源そのものも当然変わってくるだろうと思っています。

具体的な高齢者増に伴う医療のあり方については、町長が申し上げたとおり、在宅医療をベースとして、当別町の地域にある様々な資源や皆様方の色んなお恵から、この会議の中で意見をいただき、方向性を示していきたいというのが現状です。

今すぐに医療機関に関する具体的な方策は持っていないところですが、住民の方々がこの町で幸せに暮らし、安心して不安なく過ごすという理念を基本に施策化していきたいと思っています。

(座長)

余計に住民からの視点が非常に大切だと思いました。

(委員)

堀江病院の入院病床は療養型だったが、別の施設での設置がこの圏域内では可能なのか。枠の中で動いてしまえば、増やすことはできないということか。

(オブザーバー)

病床の数の制限については、基本的には市町村単位ではなく、医療圏単位で想定しています。今現在、標準の病床数よりも多い状況です。更に増やす事は難しい状況です。札幌市と

の兼ね合いもありますので、なかなか辛い状況ではあります。

(委員)

出て行ったベッドはもう戻らないということですから、これから介護などの力がとても必要になるということの裏返しの言葉だと思います。

(座長)

他にどうでしょう。

(委員)

今の時点で、町からの具体的なビジョンがないと、この会として医療のあり方のどこをつかみどころにして議論していけばいいのか分からない。

当別町として町立病院を将来作る又は作りたいという考えはあるのか。

(委員)

町立病院については、3月の住民説明会の時にも住民から話があり、町長は町立病院という形の病院の設定は基本的には考えていないと答えています。

ただその段階では、当別町に病床が必要、できれば堀江先生の病床を残したいと非常に強く思っていました。

そういった中で病床とそれを支えられるような在宅医療との兼ね合いとか、今後、高齢者が増えていく中で訪問診療・訪問看護との連携、看取りも含めて充実していきたいという思いは強かったです。

ただ、町が主体的に町立病院を持つという考えはなく、医療法人や北海道医療大学病院なども含めて相談しながらというのが現状です。医療を継続していきたいという思いは非常に強いです。

(座長)

住民説明会の時にどんな意見が出たのか、その結果は私たちに開示できますか。

(委員)

ゆとろと太美地区で2回行っているのですが、その住民説明会の時の内容については、具体的なご意見を含めて開示していきたいと思います。

(委員)

町立病院の件ですが、町は無理だという事だが、例えば住民の9割がぜひ町立病院を作りたいって望んでいるとしたら、町は考えていかななくてはならないでしょう。

当別町のどのくらいの住民が町立病院を望んでいるのかわからないので、そこを知りたいと思います。

(座長)

ありがとうございます。色々まだまだ意見が出るかと思うのですが、私からの提案です。次回の会合前に締切を設けて今日ここでは発言できなかった、あるいは町の資料のリクエストを集約し、それを整理した上で、次回の資料としてお持ちしてはどうかと考えたのですが、よろしいでしょうか。

(委員)

大賛成なんですけど、もう一つお願いがあって、資料を事前に配布していただければ、目

を通しておきますので、この会が始まったらいきなりディスカッションとするのが一番いいと思います。

(座長)

私が考えていたものと一致します。それでは後で、意見の提出先を皆さんにお示し頂けますか。

次回の日をにちを決めたいのですが、色々の作業を考えると8月の冒頭あたりいかがですか。

(事務局)

事務局としては、例えば8月3日とか10日が皆様ご都合よろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

(座長)

今日6月29日ですが、ちょうど7月の半ばに皆さんからの意見を出していただいて2週間ですかね。それで事務局でそれに対する集約と整理をやっていただいて、資料を私たちにお送りいただいて、そうすると8月3日いかがでしょう、皆さん。よろしいですね。

では、8月3日の夕刻、ぜひお時間の調整をお願いしたいと思います。

今日お配りした資料に、もう一度お目通しいただいてそれに対するご意見、それから普段から皆さんの考えのご意見、町に提供してほしい情報の要望・希望を2週間後の7月13日締め切りでお出しいただくということでよろしいでしょうか。良い施策、期待しつつ意見をお伺いできればなと思います。

大原所長、本日のミーティングに対して何かあれば。

(オブザーバー)

これもやはり先生方がおっしゃったように住民さんのご意見とか、町の実際の声聞きながら、今ある資源とこれからの将来の町のあるべき姿を検討いただくというのがいいのかなと、私も勉強させていただきながら必要に応じて道から情報提供していきたいと思えます。次回もよろしく願います。

【閉会】

(座長)

それでは今日は遅くまでどうもありがとうございました。今日のミーティングはこれで終了させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。

(事務局)

大変ありがとうございました。これから地域医療について、皆様の意見を聞きながら検討を行っていきますのでどうぞよろしく願いいたします。今日は遅くまでありがとうございました。